

平成 26 年 6 月 12 日現在

機関番号：13201

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2013

課題番号：22520394

研究課題名(和文) コリャーク語形容詞述語構造に関する記述・類型研究

研究課題名(英文) Descriptive and typological study on the adjective predicate structure in Koryak

研究代表者

呉人 恵 (Kurebito, Megumi)

富山大学・人文学部・教授

研究者番号：90223106

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円、(間接経費) 870,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、伝統的に「質形容詞」と呼ばれてきたコリャーク語の形式(N形)を取り上げ、名詞と動詞の連続相の中で捉えなおすことにより次の研究をおこなった。(1) 執筆中のコリャーク語文法記述の、形容詞と動詞の境界部分の精緻化をはかった。特に、事物の恒常的な性質を表わすN形式と一時的な状態を表わすKU形式の違いを明確に記述した。(2) 同系の他言語の形容詞の顕現の仕方の違いは、それぞれの言語の動詞の屈折体系の違いともかかわっている可能性があることを指摘した。(3) 言語類型論的にN形を位置づけた。(4) 逆受動構文、自他対応、名詞化など、形容詞の周辺の関連諸現象についてもあわせて考察を加えた。

研究成果の概要(英文)：The present study dealt with the traditionally so-called 'qualitative adjective' in Koryak (N form, for short) and conducted the following studies by viewing it in the continuum from nouns to verbs. (1) I aimed to refine the description on the boundary part between adjectives and verbs. Especially, morphological and syntactic differences between noun-like N forms of property predication and verb-like KU form of event predication were clearly demonstrated by this study. (2) I pointed out that the different manifestation of N form in the genetically related languages, especially, Chukchi and Alutor, was probably related to the different verb inflectional systems in different languages. (3) I aimed to place N form in the typological perspective. (4) I also examined several related phenomena such as antipassive, intransitive/transitive verb alternation, and nominalization.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・形態論

キーワード：コリャーク語 質形容詞 属性叙述 事象叙述 逆受動構文 異常構文 自動詞化 自他対応

## 1. 研究開始当初の背景

形容詞は、独立の品詞としての認定が必ずしも容易でないことから、これまでその位置づけについて言語類型論的視点から検討がなされてきた(Dixon 1982, Dixon et al. (eds.) 2004, Stassen 1997, Wetzler 1996)。北東シベリアに分布するコリヤーク語(チュクチ・カムチャツカ語族)の伝統文法における形容詞の扱いを、この研究の流れの中に置くと、大きく次の3つの問題が顕在化する。

- (1) ロシア人によって書かれたコリヤーク語伝統文法では、形容詞はロシア語学を踏襲して「質形容詞」と「関係形容詞」の2つに大別され、4種類の形式がそれぞれに振り分けられている(Zhukova 1972: 144-162)。しかし、このような二分法ではコリヤーク語の形容詞の姿を正しく捉えることはできない。
- (2) ロシア国外の、主に類型論的研究では、コリヤーク語が属するチュクチ・カムチャツカ語族の形容詞の品詞性について、これを名詞的とする見解(Stassen 1997:559)と、動詞的とする見解(松本 2007:96-108)が対立しており、正しい位置づけが明らかにされていない。
- (3) コリヤーク語のプロトタイプの形容詞は、名詞とも動詞とも関連性を持つため、その解明には名詞、動詞の屈折カテゴリーの的確な把握が不可欠である。しかし、特に動詞の屈折体系に関する従来の記述には矛盾点が多い。

これらの問題点を克服するため、特に形容詞と動詞の相関性に関し、よりきめ細やかな調査研究が必要であること、コリヤーク語の枠を越え、同系の諸言語との比較により史的形容詞研究の基礎作りをする必要であることなどが明らかになってきた。以上が、研究開始当初の研究の背景である。

## 2. 研究の目的

本研究は、コリヤーク語を対象に、一般に品詞としての認定が難しいとされる形容詞を取り上げ、これを名詞と動詞の連続相の中で捉えることにより、大きく次の4点の解明に取り組むことを目的とした。

- (1) 現在、進めているコリヤーク語文法記述の、特に形容詞と動詞の境界部分の精緻化をはかる。特に、恒常的な性質を表わすN形式と一時的な状態を表わすKU形式の違いを明確に記述する。
- (2) 同系の他言語の形容詞と比較することにより、史的形容詞研究の基礎作りをする。
- (3) 言語類型論的にコリヤーク語の形容詞を位置づける。
- (4) 逆受動構文、自他対応、名詞化など、形容詞の周辺の関連諸現象について考察を加えることにより、記述をより奥行きのあるものにする。

あるものにする。

## 3. 研究の方法

以下、平成22年度から平成25年度まで、各年度におこなった研究の方法について略述する。

### 【平成22年度】

辞書や現地調査を通じて、網羅的にプロトタイプの形容詞の抽出をおこなう。収集した語は、Dixon(2004:3-5)が提案する形容詞の「中核的意味タイプ」「周辺的な意味タイプ」「より周辺的な意味タイプ」に分類し、コリヤーク語のプロトタイプの形容詞がどのような意味タイプの分布を示すのか、また、どのくらいの規模であるのかを明らかにする。

### 【平成23年度】

動詞の屈折体系の見直しをおこない、プロトタイプ形容詞がどのようにその体系の中に位置づけられるのかを解明する。22年度に収集した形容詞をもとに、形容詞のN形、KU形にも動詞同様の恒常的か一時的かの使い分けが平行的に見られるかどうか、また、N形とKU形が、他の文法パラダイムとどのように呼応しあい、時間的安定性の有無を顕現するのかを詳細に調査し、形容詞と動詞の相関関係を明らかにする。

### 【平成24年度】

同系のチュクチ語、アリユートル語、イテリメン語と比較検討し、チュクチ・カムチャツカ語族におけるプロトタイプの形容詞の形成と、動詞の屈折体系への参入について通時的な考察をおこない、語族における原体系を再構築するための基礎作りをする。

### 【平成25年度】

本研究の総括年度として、コリヤーク語形容詞の類型論的位置づけをおこなう。加えて、逆受動構文、自他対応、名詞化など形容詞の周辺の関連諸現象についても考察をおこない、さらなる研究の礎とする。

## 4. 研究成果

本研究により次の点を明らかにした。

- (1) コリヤーク語で従来「形容詞」と呼ばれてきた形式(N形)は、いわゆる一般言語学的意味での形容詞とはその性質、機能において異なる点があり、むしろ、「属性叙述」形式としてとらえるべきである。また、N形は「事象叙述」の動詞屈折形式であるKU形と対立する。
- (2) N形は形態統語的に名詞的であるのに対し、KU形は動詞的である。
- (3) 同系の諸言語間では、属性叙述形式と事象叙述形式は異なる顕現のしかたを示すが、これはそれぞれの言語の動詞の屈折体系の違いと相関している。

- (4) 属性叙述形式は、とりわけ他動詞語幹から派生される際に、逆受動化あるいは異常構文を引き起こす。具体的には、属性叙述文は他動詞語幹から派生されても自動詞的なふるまいをするという、他動性の弱化現象が特徴的である。
- (5) コリヤーク語の自動詞と他動詞の形態的対応は、使役化、自他同形、異根動詞、逆使役化などの多様なパターンを示すものの、使役化が優勢な他動詞化型を示す。
- (6) 逆受動構文では目的語の表わし方何通りかあるが、これは被動作性の程度により使い分けられている。
- (7) 名詞化により派生した動作名詞や動作主・被動作主名詞などは、N形同様、形態的・統語的に名詞との類似性を示しながらも、一方で、名詞修飾機能や動詞性をおびている。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 14 件)

呉人恵(2014)「コリヤーク語における動作名詞と動作主・被動作主名詞—名詞化の度合いに注目して—」『北方言語研究』4:43-64.

呉人恵(2014)「コリヤーク語における S=A 交替」『北方人文研究』7: 25-53.

Kurebito, Megumi (2013) Quasi-mermaid construction in Koryak. In: Tasaku Tsunoda (ed.) *Adnominal Clauses and the 'Mermaid Construction': Grammaticalization of Nouns*. (NINJAL Collaborative Research Project Reports 13-01), 649-666. Tokyo: National Institute for Japanese Language and Linguistics.

呉人恵(2013)「コリヤーク語動詞の自他対応—中立的か他動詞化型か—」北方言語ネットワーク編『北方言語研究』3: 85-109.

呉人恵 (2013)「コリヤーク語の形態的・統語的能格性—動詞の一致と節接続を中心に—」『北方人文研究』6:47-64.

呉人恵 (2012)「コリヤーク語の属性叙述 - 項から主題への変換のメカニズム」影山太郎編『属性叙述の世界』265-283. 東京: くらしお出版.

呉人恵(2012)「チュクチ・カムチャツカ語族における属性叙述 - N 形の意味・機能の異同に着目して - 」『北方言語研究』2: 115-137.

Kurebito, Megumi (2012) Adverbial Clauses in Koryak: Degrees of Subordination and the Five Levels 『北方人文研究』5: 71-94.

呉人恵 (2011)「コリヤーク語の名詞化 - 動作主・被動作主名詞の意味とシンタックス」『北方言語研究』1: 41-62.

Kurebito, Megumi(2011) How is *Taro=wa asu ku-ru hazu=da* expressed in Koryak - Comparing Koryak Agentive/Patientive

Nominals with Japanese MMC『富山大学人文学部紀要』55:19-36.

Kurebito, Megumi (2011) Agentive/Patientive Nominalization in Koryak, *Linguistic Typology of the North* 2: 87-104. Tokyo: Tokyo University of Foreign Studies, ILCAA.

呉人恵 (2010)「時間的安定性から見たコリヤーク語の形容詞事象叙述文」呉人恵編『環北太平洋の言語』15: 31-44. 富山: 富山大学人文学部.

呉人恵 (2010)「コリヤーク語の属性叙述 - 主題化のメカニズムを中心に」『言語研究』138: 115-147.

呉人恵 (2010)「コリヤーク語の-Nvo が表わす始動アスペクトと習慣アスペクト」『北海道立北方民族博物館研究紀要』19: 43-55.

[学会発表](計 10 件)

呉人恵 (2014.1.11)「コリヤーク語の属性叙述とその特異な統語操作—項から主題への変換のメカニズム—」麗澤大学言語研究センターシンポジウム「名詞的表現の機能に関する対照言語学的研究」(麗澤大学)

呉人恵(2012.11.3)「コリヤーク語動詞の自他使役化か両極化か」名古屋大学第7回項構造研究会(名古屋大学文学研究科)

呉人恵 (2012.7.20)「チュクチ・カムチャツカ語族における属性叙述」科学研究費補助金基盤研究(C)「コリヤーク語形容詞述語構造に関する記述・類型研究」研究会(北海道大学北方研究教育センター)

呉人恵 (2012.6.30)「コリヤーク語における自他対応」国立国語研究所共同研究「述語構造の意味範疇の普遍性と多様性」(リーダー: Prashant Pardeshi) 研究発表会(京都大学文学研究科)

呉人恵(2011.12.10)「コリヤーク語における五段階」国立国語研究所共同研究発表会(節連接へのモーダルの・発話行為的な制限)(国立国語研究所)

呉人恵(2011.6.19)「コリヤーク語の属性叙述形式と異常な統語操作」日本言語学会第142回大会公開シンポジウム『言語におけるデキゴトの世界とモノの世界』(日本大学)

呉人恵(2011.4.23)「コリヤーク語の体言締め文」国立国語研究所共同研究発表会(形容詞節と体言締め文: 名詞の文法化)(国立国語研究所)

Kurebito, Megumi(2010.9.11) Property and Event Predication in the Koryak Language: An Argument for a New Predication Type Theory (The Second Conference in Linguistics within the Birgit Rausing Language Program, HUMANITIES OF THE LESSER-KNOWN), Centre for Languages and Literature, Lund University, Sweden (Poster Session)

呉人恵(2010.9.5)「コリヤーク語の属性叙述形式とその特異な統語操作」(国立国語研究

所共同研究会プロジェクト「日本語レキシ  
コンの文法的・意味的・形態的特性」研究  
発表会 [リーダー：影山太郎](大阪大学  
言語文化研究科)

呉人恵(2010.5.29)「コリヤーク語の属性叙述  
- 主題化のメカニズムを中心に - 」A A 研  
共同研究プロジェクト「北方諸言語の類型  
論的比較研究」第一回研究会(東京外国語  
大学本郷サテライト)

[図書](計1件)

呉人徳司・呉人恵(2014)『探検言語学 こと  
ばの森に分け入る』札幌：北海道大学出版  
会。

[産業財産権]

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

呉人恵 (KUREBITO, Megumi)

研究者番号：90223106

### (2) 研究分担者

なし ( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

小野智香子 (ONO, Chikako)

研究者番号：50466728

呉人徳司 (KUREBITO, Tokusu)

研究者番号：40302898

永山ゆかり (NAGAYAMA, Yukari)

研究者番号：20419211